

ウランガラス

ウランガラス うらんがらす

uranium glass. ウランガラスは、着色剤として微量のウランを混ぜたガラスで、主に黄色や緑色をしたガラス。ウランが発見された今から約200年前、その利用法としてガラスへの着色が考えられた。1830年代からボヘミア地方を中心に、ヨーロッパで花瓶や食器など各種のガラス製品が大量に作られ始めた。現在では、米国などで僅かな量が生産されるに過ぎない。このウランガラスの最大の特徴は、真っ暗な中で紫外線ランプをあてると、黄緑色の蛍光を発す点である。これは、ウラン原子が紫外線のエネルギーを吸収し励起状態に達したあと、基底状態に戻るときに黄緑色の光を放つことによる。なお、ウランガラスに含まれるウランは微量なので、健康には全く影響はない。

<登録年月>
2002年03月
